

夏の部 優秀賞十首

いつとても
心の中に古里がありて切なく
枕を濡らす

愛知県半田市 矢浦 詠正

暑き夏さんさ見たしと今年又また

高速走り
妻と来たりし

青森県弘前市 福井 希夫

ラジオから 流れる
ニュースの 盛岡弁
耳かたむけて 心やすらぐ

盛岡市 小松 君子

盛岡の地を踏みしめた

夏の日を忘れることなく

生きてゆきたい

茨城県つくば市 荒井 美咲

啄木もこの丘の上愛したと

聞いてこの地を

もう一度踏む

福岡県福岡市 土師 マリア

一人旅

山の向こうに見る空に

啄木想う一七の我

茨城県土浦市 笠倉 京佳

風鈴が迎えてくれし

啄木の青春刻む

盛岡の街

盛岡市 河野 康夫

こずかた
不来方の城の石垣守るがに

石の隙間に

とかけ
蜥蜴顔出す

盛岡市 小林 貴史

嬉し気に

さんさの昼練 加わりし

つま
夫はすっかり 盛岡の人

東京都中野区 今井 貨預

こずかたじょう
青葉なる不来方城の石垣の

弧にヴィオロンの

弓を当てみむ

東京都江東区 藤村 清彦

〔講評〕初めて選者をさせていただきましたが、二百四十四首もの作品が寄せられているのに大変驚きました。どの作品も作者の思いが素直に伝わってくるものばかりで、十首を選ぶのに大変苦労いたしました。

平成二十七年九月選 夏の部

投稿数 二百四十四 首

選者 山本豊